

## フィンランド 国立健康福祉センター視察・研究会参加報告 (National Institute for Health and Welfare, Helsinki, Finland)

長田 洋和

Let's Talk About Children (以下, LT) の日本版の開発ならびに実践に向けて, 開発者である Tytti Solantaus 博士から専門的知識提供を得るために, 2014年9月6日~15日の10日間, フィンランド (ヘルシンキ) への出張を行った。

LTは, 精神疾患を有する親の子育て支援を目的とした短期介入プログラムである。このプログラムの目的は, 精神疾患を有している親とその子ども (あるいは家族) と2回の介入セッションを行い, 精神疾患を有する親特有の子育てにおける苦悩を軽減することに加え, 子ども(本セッションでは, クリニック等にはかかっている定型発達児で, 少なくとも4歳を超えているものを対象とする) の不適応行動 (精神疾患の発症を含む) といった不良な予後を未然に防ぐことを目的としている。

Beardsleeらは, 精神疾患を有する親を持つ子どもは, 精神疾患の発症を含む不適応行動を生ずる可能性が高いことが示した上で, こうした環境に置かれることにより, これらの子どもはそうでない子どもよりもレジリエンスが高まるという報告を行っている。Beardslee & Gladstoneらは, アメリカ (ボストン) において Family Talk という予防介入法を開発・実践している。2010年1月に, 開発者の Beardslee 博士, Gladstone 博士らから Family Talk に関する情報提供を受け, 日本版の開発および実践許可を得ているが, 当該家族の参加や intensive なセッションとその回数確保, さらにコスト面を考慮すると, 残念ながら, 少なくともすぐにはわが国のメンタルヘルスサービスの枠内で効果的に実践できるものではないと思われる。LTは, Family Talk の内容を踏まえ, より簡便かつ短期間に行うことが可能であり, かつアメリカよりもわが国とメンタルヘルスサービス体制に近いフィンランドで開発された介入法であることから, わが国への導入もスムーズであると考えた。本出張によって, Solantaus 博士から LT 日本版の開発および実践の許可を得ることができた。

今後, LTの日本版の開発を進めるにあたり, まずは, 地域のクリニックに通院する精神疾患 (うつ病, 双極性障害, 不安症 (抑うつ気分を伴うもの)) を有する親で, 4歳から18歳の定型発達児を育てているものを対象に日本版LTの実践を行い, 効果評価を行う。効果評価に関しては, Solantaus 博士がフィンランドで行ったLTの効果評価研究にならい, 複数の評価尺度 (CES-D, STAI など) のバッテリーを実施し, エビデンスの提供をしていくことになる。

なお, 本出張では, これに加えてLTの年次ミーティングでの研究会において本プロジェクトの研究成果の発表も行い, フィンランドの研究者・実践家たちとの情報交換も行うことができた。

## 発表題目

Osada, H. (2014). A qualitative analysis of narratives of Japanese mothers parenting children with developmental disabilities. Let's Talk About Children Annual Meeting 2014, Högsand, Finland.

Osada, H. (2014). Literacy about Autism Spectrum Disorder among Japanese general population. Let's Talk About Children Annual Meeting 2014, Högsand, Finland.